

郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年7月31日現在

今月の重点活動

■夏秋トマト 夏秋トマト部会目揃会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会は7月19日に郡上総合庁舎で目揃会を開催した。

本年から郡上を含めた県内産夏秋トマトは出荷規格の変更があり、生産者は、実物を確認しながら新しい出荷規格の目合わせを行った。新しい規格は、簡素化されており選果場と物流の効率化が見込まれる。

目揃会に併せて栽培研修会も開催され、農業普及課から病害対策や高温対策など今後の栽培管理について説明した。

農業普及課では、高品質な郡上の夏秋トマトが安定出荷できるよう技術支援および情報提供等の支援を継続する。



【出荷規格等を再確認】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■水稻 郡上北部の水田農業関係者が情報交換

J Aめぐみの水田農業担い手協議会・郡上北部支部の情報交換会が7月2日に白鳥町で開催され、郡上市北部の水田農業の担い手と関係機関（J A、全農、市、農林事務所）27名が出席した。

担い手からは、今年の作付計画や移植後の生育状況などの報告があり、関係機関からは米穀情勢、土壌診断、肥料農薬、共同防除、地域計画、畦畔率設定など情報提供が行われた。その中で、農業普及課からは、今年の品種や肥料農薬などの現地試験状況を説明した。また、品種や育苗、雑草対策や水管理についての問題も意見交換した。

当協議会は、事務局がJ Aで、水田農業の担い手の情報交換や交流を目的に発足され、年数回情報交換会を開催している。農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら協議会の活動を支援していく。



【情報交換会の様子】

■新規就農 「郡上トマトの学校」の募集説明会が開催される

新規就農者育成施設の「郡上トマトの学校」で7月6日に令和7年度研修生の募集説明会が開催された。郡上市出身者2名の参加があり、J Aから研修内容や郡上地域のトマト産地概要等の説明が行われた。その後、質疑応答があり参加者からは研修から就農までのスケジュールに関する具体的な質問があるなど、参加者の就農への高い意欲が感じられた。

農業普及課では、J A、市、夏秋トマト部会の関係機関と連携して「郡上トマトの学校」の研修生確保と就農に向けた支援をしていく。



【募集説明会の様子】

■夏だいこん・夏秋いちご 将来の農業を担う県農業大学校生の視察を受け入れ

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では7月2日に、ひるがの高原いちご組合では7月24日に農業大学校生の視察を受け入れた。農業普及課では、両組合の生産者組織と連携し、視察研修の受け入れ日時調整、現地説明や質疑応答などの対応を行った。

当地域におけるダイコンは「夏ダイコン」、いちごは「夏秋いちご」であり、両品目とも夏期冷涼な高鷲地域の気候を活かした経営品目となっている。学生は高冷地ならではの農業経営に高い関心を持った様子で、説明のメモを取るだけでなく、複数の学生が積極的に質問を行っていた。

農業普及課では、将来の農業を担う青年農業者等の育成機関である農業大学校等の教育機関の活動を支援していく。



【普及指導員の説明にメモをとる学生】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏だいこん 「ひるがの高原ダイコン」のさらなる収量・品質向上となる品種を選定

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、一層の収量と品質向上を目指して、より産地に適した品種を選定するため作型ごとの品種比較試験を行っている。

品種比較試験は、生産者が栽培を、農業普及課職員が試験計画作成と供試品種種子等の準備、調査と実績書作成を担当している。本年度も4月中旬から7月下旬まで、11回の播種期に分け、33ほ場、品種とほ場の組合せで99試験区の調査を実施中である。

7月末時点で5回の播種期の収穫調査しており、高温乾燥や多雨の影響を受けやすい品種が明らかになった。

農業普及課では、品種比較試験は次作における品種選定にかかわる取組であり、正確かつ慎重に調査結果をとりまとめ、より産地に適合した品種を提案して生産振興に向けた支援をしていく。



【だいこんの収穫物調査】

■夏秋いちご 夏秋いちご出荷検討会を開催

ひるがの高原いちご組合の出荷検討会が7月6日に開催された。生産者、市場担当者、関係機関（JA、市、全農、農林事務所）が集まり、出荷について検討、情報交換した。今年度は7月3日から選果場が稼働し、出荷が始まっている。

検討会では、JAから今年の出荷規格の確認、各市場から市場情勢、全農岐阜から昨年度の出荷結果が報告された。普及課からは、高温対策、病害虫対策、栽培管理について説明した。

農業普及課では、栽培技術等の情報提供を通じた高品質安定生産支援を継続して実施する。



【出荷検討会の様子】